



2009年3月期 決算説明会

LECIP

レシップ株式会社

東証2部・名証2部:【7213】

2009年 5月

▶ 1. 事業セグメントの内容について

2. 2009年3月期 業績概要

3. 重点課題の進捗状況

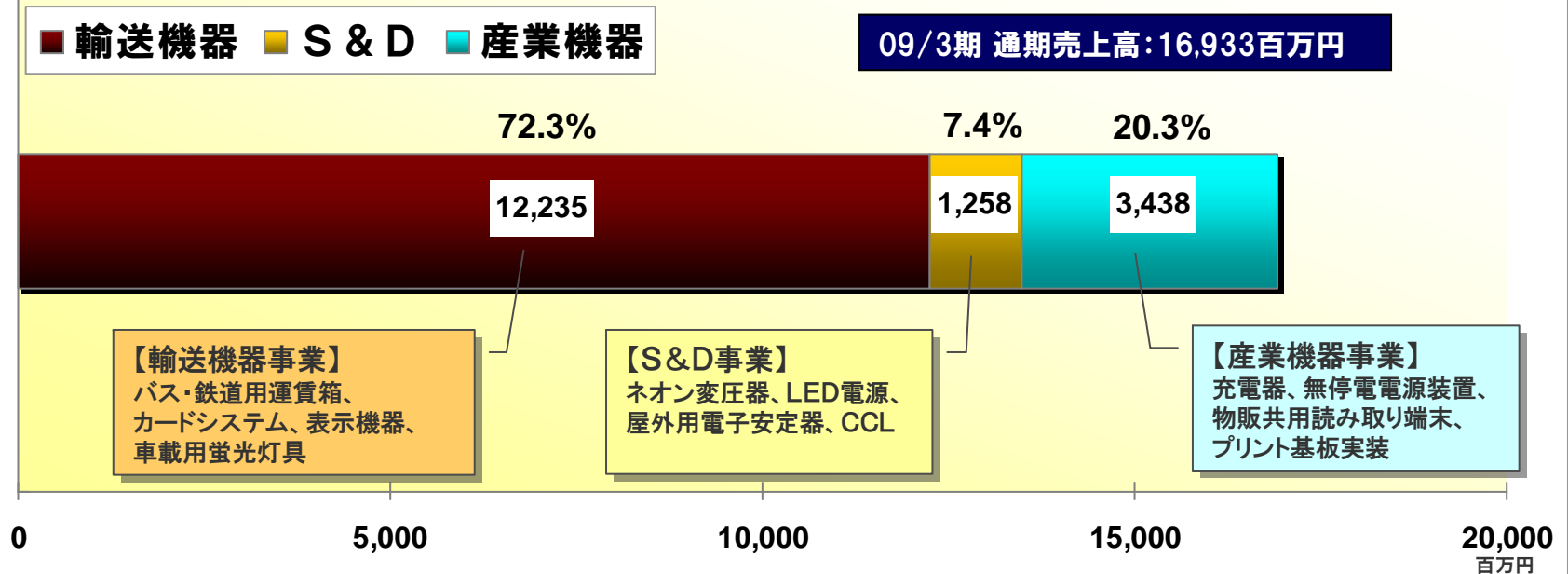
4. 2010年3月期 業績見通し、配当の状況、その他

▶ 輸送機器事業

▶ S&D(サイン&ディスプレイ)事業

▶ 産業機器事業

09年3月期 通期の事業セグメント別売上高



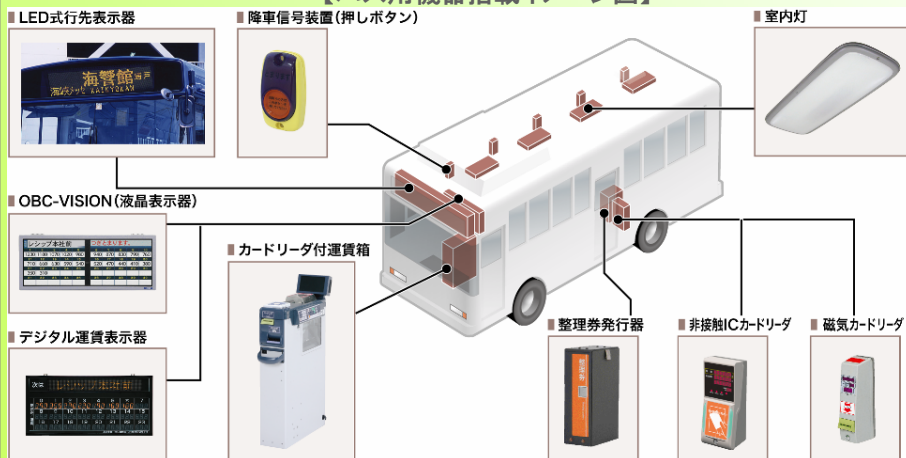
輸送機器事業

● バス市場向け製品



- 国内唯一の、「バス用電装機器トータルサプライヤー」ワンストップソリューションを実現
- バス用ICカードシステムのパイオニア
- 多くの製品で国内トップシェアを獲得

=====【バス用機器搭載イメージ図】=====



● 鉄道市場向け製品



- ワンマン鉄道用機器と、車両用蛍光灯具を展開
- 鉄道用運賃箱は、国内90%以上のシェアを獲得

● 自動車市場向け製品



- 自動車用蛍光灯具のパイオニア
- 国内70%以上のシェアを獲得

S&D事業



LED電源



(巻線式) ネオン変圧器 (電子式)



屋外蛍光灯看板用電子安定器



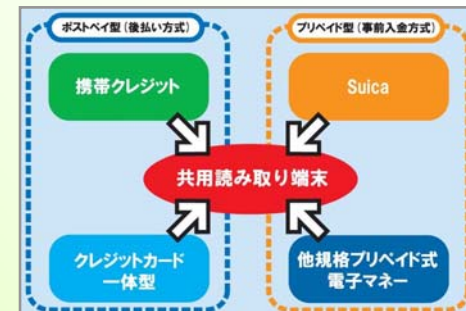
CCL(Cold Cathode Lamp)

- ネオン変圧器で、国内トップシェアを獲得
- 「屋外広告用電源の総合メーカー」への転換を図るべく、新規製品の拡販に注力
 - LED電源
 - 屋外蛍光灯看板用電子安定器
 - CCL(Cold Cathode Lamp)

産業機器事業



フォークリフト用充電器



物販共用読み取り端末



プリント基板実装ライン



- フォークリフト用充電器で国内トップシェアを獲得
- 複数規格の電子マネーに対応する物販共用読み取り端末の開発・製造
- 連結子会社 レシップ電子において、プリント基板実装事業を展開

1. 事業セグメントの内容について

▶ 2. 2009年3月期 業績概要

3. 重点課題の進捗状況

4. 2010年3月期 業績見通し、配当の状況、その他

業績のポイント

前期比：減収  減益 

マイナス要因

- 物販共用読み取り端末の反動減
- レシップ電子：小型液晶パネル組立て生産の売上剥落、プリント基板実装の初期生産コスト増
- 国内および米国におけるネオン変圧器の販売低迷
- S&D事業における固定資産の減損損失(特損)：91百万円
棚卸資産評価基準の変更に係る評価損(特損)：27百万円

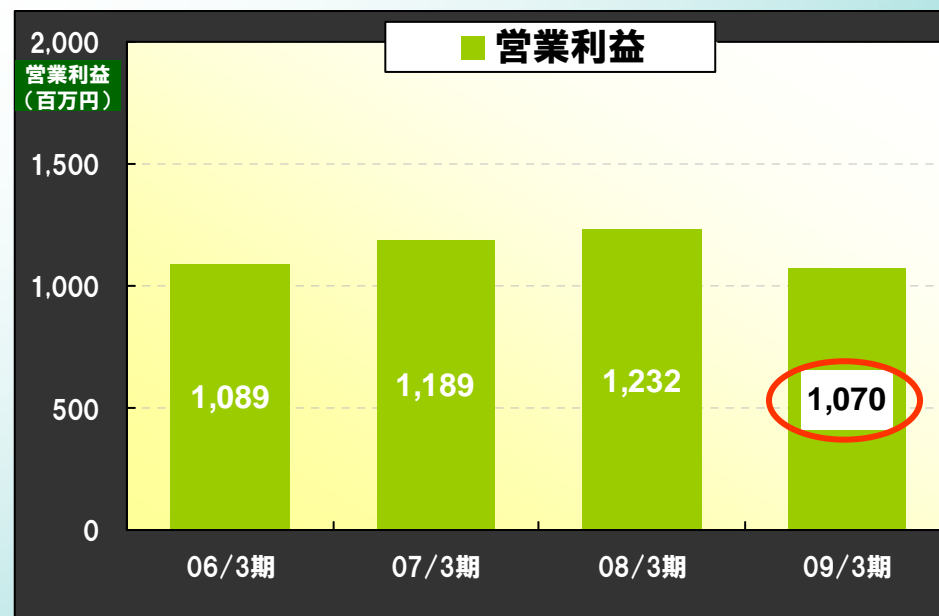
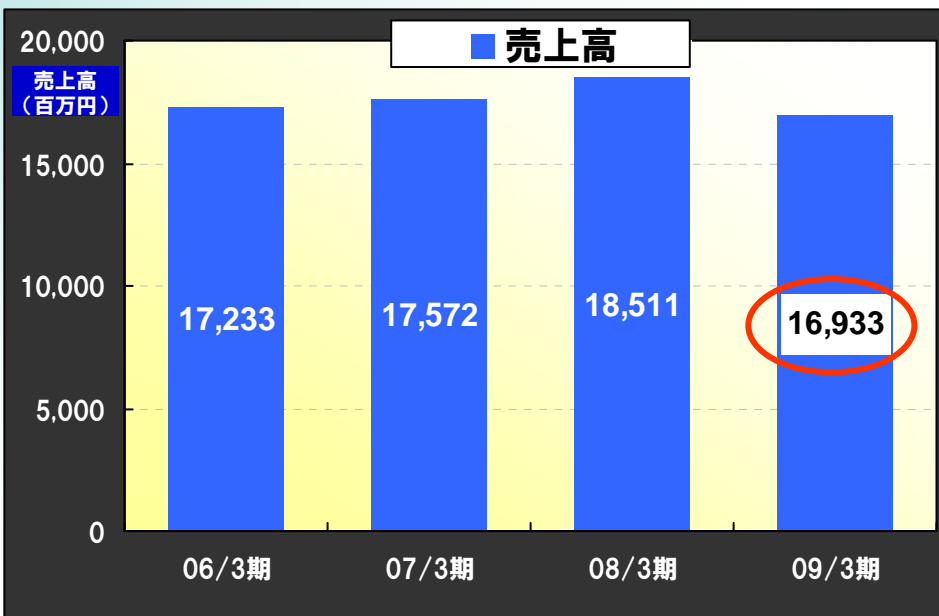
プラス要因

- 主力のバス市場向け製品は、ICカードシステムや、運賃箱などが堅調推移
- 外部環境の改善：ネオン変圧器や充電器の主要部材となる銅の価格下落
生産拠点のあるタイ国の通貨バーツの下落

※S&D事業・ネオン変圧器の生産をタイで行っていることから、パーツ高が利益を圧迫する要因となる。

2009年3月期 連結業績ハイライト

【連結】 通期業績 (単位:百万円)	2008年3月期		2009年3月期					
	① 前期実績	構成比	② (08年5月)	③ (09年4月)	④ 実績	構成比	前期比 増減額 ④-①	前期比 増減率
			当初発表 業績予想	修正発表 業績予想				
売上高	18,511	100.0%	17,570	16,933	16,933	100.0%	▲1,578	▲8.5%
売上総利益	4,600	24.9%	—	—	4,122	24.3%	▲478	▲10.4%
営業利益	1,232	6.7%	1,230	1,084	1,070	6.3%	▲162	▲13.2%
経常利益	1,208	6.5%	1,220	1,118	1,104	6.5%	▲103	▲8.6%
当期純利益	686	3.7%	690	534	521	3.1%	▲164	▲24.0%

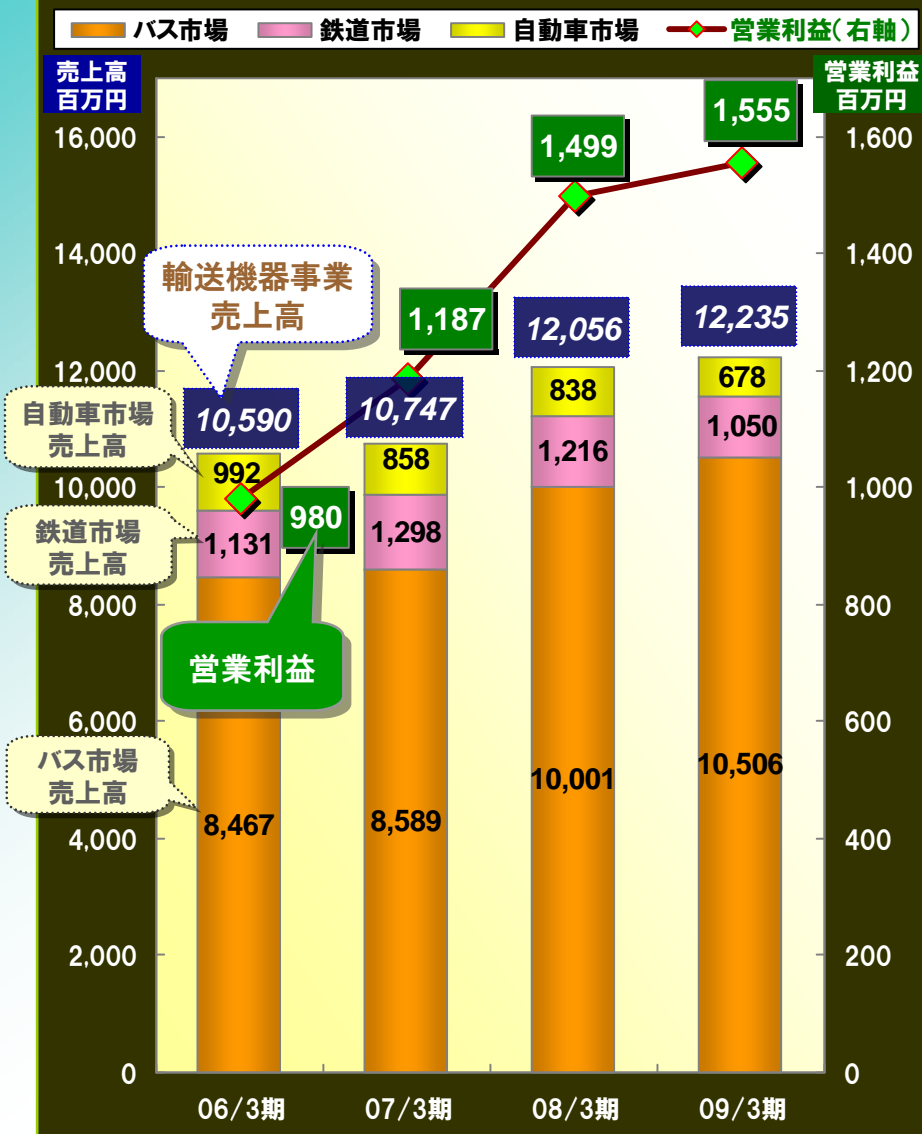


2009年3月期 セグメント別業績

売上高 (単位:百万円)	2008年3月期		2009年3月期			
	前期実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	12,056	65.1%	12,235	72.3%	+178	+1.5%
S&D事業	1,563	8.5%	1,258	7.4%	▲304	▲19.5%
産業機器事業	4,891	26.4%	3,438	20.3%	▲1,452	▲29.7%
連結売上高	18,511	100.0%	16,933	100.0%	▲1,578	▲8.5%

営業利益 (単位:百万円)	2008年3月期		2009年3月期			
	前期実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	1,499	110.6%	1,555	133.7%	+55	+3.7%
S&D事業	▲387	▲28.6%	▲352	▲30.3%	+35	-
産業機器事業	244	18.0%	▲40	▲3.4%	▲284	-
計	1,356	100.0%	1,162	100.0%	▲193	▲14.3%
消去・全社	(123)	-	(92)	-	▲30	▲24.8%
連結営業利益	1,232	-	1,070	-	▲162	▲13.2%

輸送機器事業:売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ↗ +1億78百万円 + 1.5%
■ 営業利益: 前期比 ↗ + 55百万円 + 3.7%

バス市場製品売上高

前期比: +5億04百万円(+5.0%)

- ▶ 引き続き、ICカードシステムが前年実績を上回る。
- ▶ 運賃箱等その他の製品も総じて堅調。



鉄道市場製品売上高

前期比: ▲1億65百万円(▲13.6%)

- ▶ 蛍光灯は前年並みとなるも、ワンマン機器関連が減少。



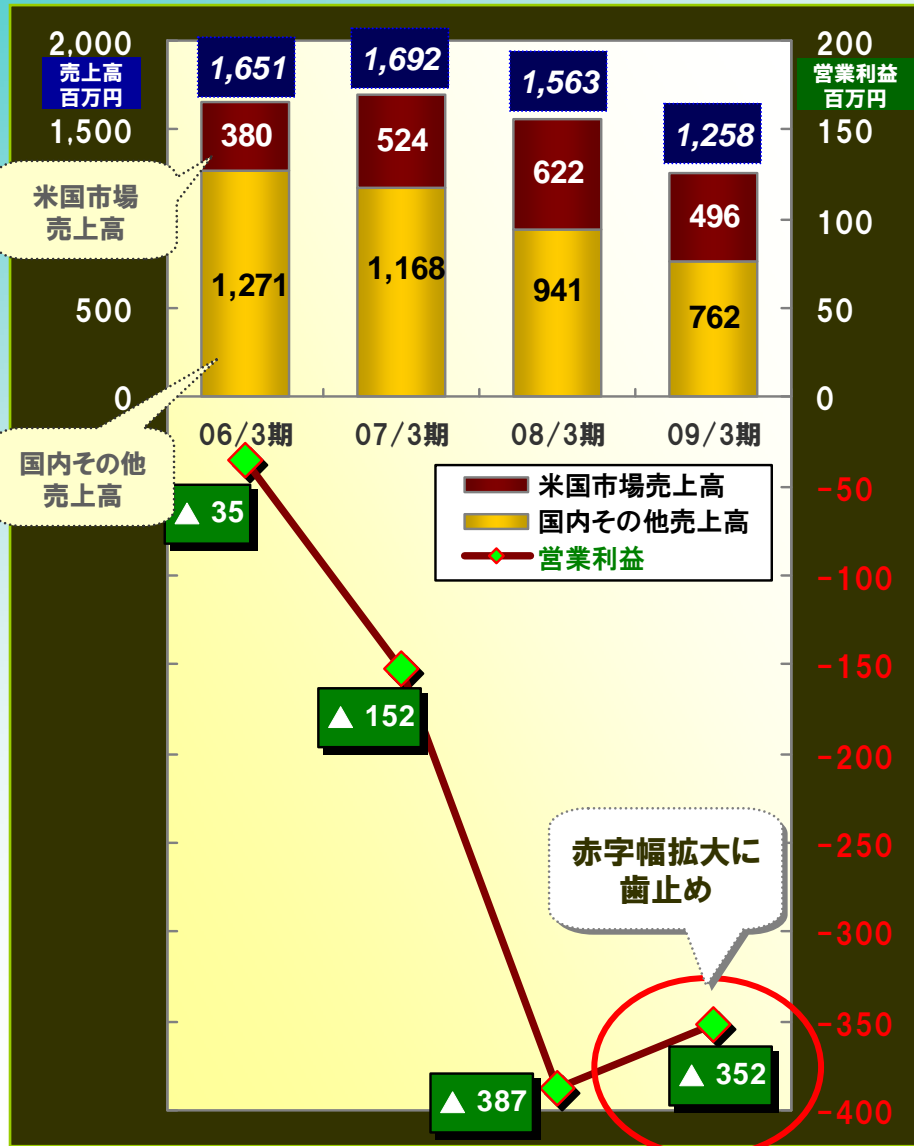
自動車市場製品売上高

前期比: ▲1億60百万円(▲19.1%)

- ▶ 下期以降、トラック用蛍光灯具の販売が大きく減少
- ▶ タクシー用電子マネー決済端末を納入



S&D事業:売上高・営業利益の推移




■ 売上高 : 前期比 ▲ 3億04百万円 ▲ 19.5%
■ 営業利益: 前期比 ▲ +35百万円 -

国内ネオン変圧器・小型変圧器・その他

前期比: ▲ 1億79百万円 (▲ 19.0%)

▶ 国内ネオンサイン市場の需要低迷



米国ネオン変圧器

前期比: ▲ 1億26百万円 (▲ 20.3%)

▶ 米国景気後退、円高の影響



外部環境の改善

▶ 銅価格の下落 : 前期比: 約23%下落


▶ タイ・パーツの下落: (円建): 前期比: 約16%下落、(ドル建): 約4%下落

▶ 鉄価格は上昇 : 前期比: 約30%上昇
(下期以降は徐々に下落)

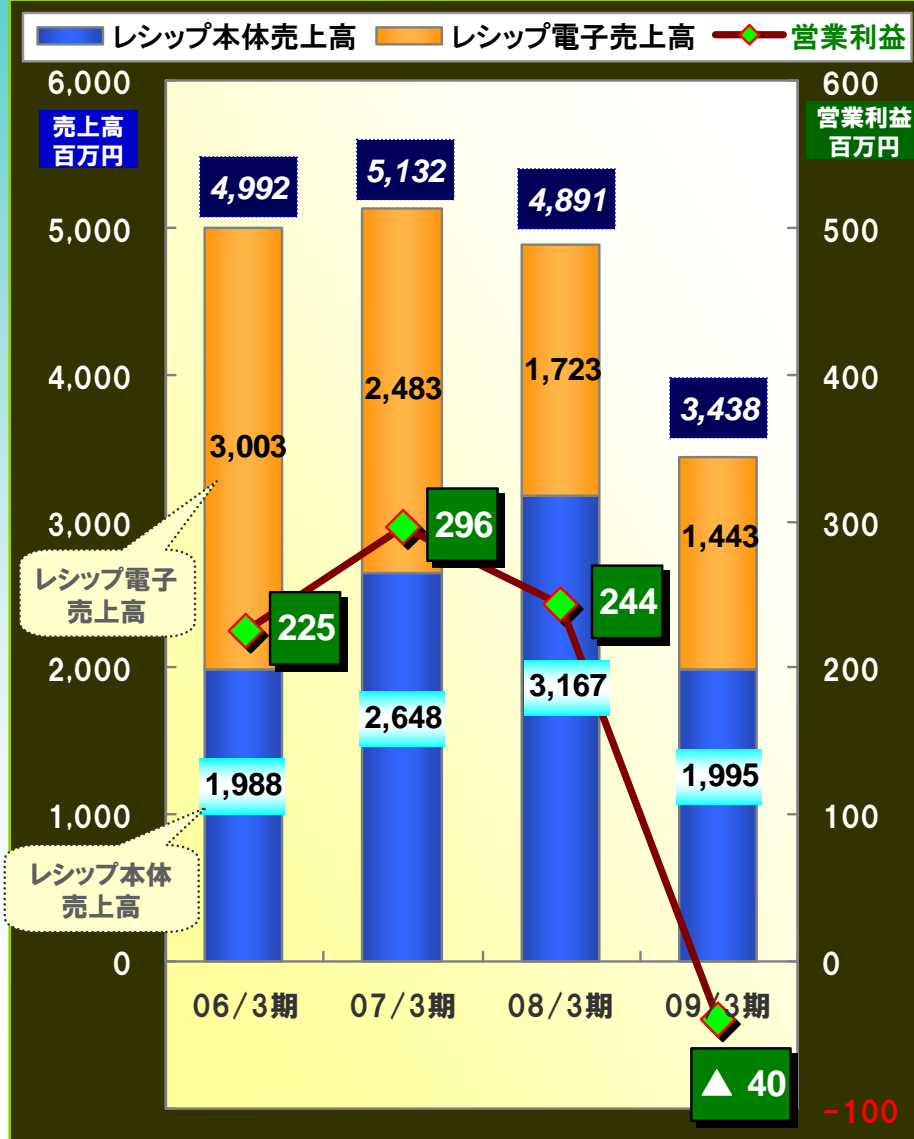
新規製品の拡販

前期比: +15百万円 (+21.0%)

▶ LED電源、屋外用電子安定器
CCLの拡販活動進めるも、出遅れ




▶ 産業機器事業：売上高・営業利益の推移



▲ 売上高 : 前期比 ▲ 14億52百万円 ▲ 29.7%
▲ 営業利益 : 前期比 ▲ 2億84百万円 —




物販共用読み取り端末

前期比: ▲ 9億98百万円 (▲ 85.2%)
 ▶ 前期大幅増の反動により、大きく減少
 ▶ 流通業界の新規出店手控えも影響



フォークリフト用充電器、無停電電源装置


▶ フォークリフト用充電器
 前期比: ▲ 72百万円 (▲ 7.4%)

▶ CATV基地局・PHS基地局用無停電電源装置
 前期比: ▲ 1億41百万円 (▲ 31.2%)

レシップ電子

前期比: ▲ 2億80百万円 (▲ 16.3%)
 ▶ 小型液晶パネル組立て生産の売上剥落 (前期比: ▲ 2億10百万円)
 ▶ プリント基板実装は、自動車向けの新規基板立ち上げるも、下期以降、自動車向け、電子機器向けともに失速 (前期比: ▲ 69百万円)
 ▶ 新規実装立ち上げに伴う初期生産コスト増が重しに



連結損益の状況

【連結P/L】	2008年3月期 通 期		2009年3月期 通 期			
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	18,511	100.0	16,933	100.0	▲1,578	
売上総利益	4,600	24.9	4,122	24.3	▲478	
販売費及び 一般管理費	3,367	18.2	3,052	18.0	▲315	人件費:▲117百万円、 首都圏ICカード初期導入に伴う費用等: ▲49百万円、運賃:▲52百万円
営業利益	1,232	6.7	1,070	6.3	▲162	
営業外収益	64	0.3	73	0.4	+8	為替差益: +10百万円
営業外費用	89	0.5	39	0.2	▲50	為替差損:▲36百万円、 支払利息:▲11百万円
経常利益	1,208	6.5	1,104	6.5	▲103	
特別利益	14	0.1	18	0.1	+3	
特別損失	10	0.0	163	1.0	+152	固定資産の減損損失: +91百万円、 棚卸資産評価基準変更に伴う評価損: +27百万円、 投資有価証券評価損: +14百万円
当期純利益	686	3.7	521	3.1	▲164	

■ 連結貸借対照表の主な増減項目

【連結B/S】	2008年3月期 期 末		2009年3月期 期 末			
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	8,587	74.9	7,904	75.9	▲683	売上債権 :▲ 485百万円、 棚卸資産 :▲ 296百万円、 現預金 :▲ 191百万円
固定資産	2,882	25.1	2,513	24.1	▲368	有形固定資産:▲ 310百万円、 投資有価証券:▲ 76百万円
■ 資産合計	11,470	100.0	10,417	100.0	▲1,052	
流動負債	6,100	53.2	4,282	41.1	▲1,818	短期借入金および1年内返済予定長期 借入金 :▲ 928百万円、 仕入債務 :▲ 540百万円、 未払金 :▲ 407百万円
固定負債	374	3.3	796	7.6	+422	長期借入金 :+ 446百万円
■ 負債合計	6,475	56.5	5,078	48.8	▲1,396	
■ 純資産合計	4,995	43.5	5,338	51.2	+343	利益剰余金 :+ 415百万円
■ 負債・純資産合計	11,470	100.0	10,417	100.0	▲1,052	

1. 事業セグメントの内容について

2. 2009年3月期 業績概要

▶ 3. 重点課題の進捗状況

4. 2010年3月期 業績見通し、配当の状況、その他

業界環境と、取り組みを進めている重点課題

	業界環境	重点課題
輸送機器	<ul style="list-style-type: none"> ○国内の路線バスの台数は、横這い推移 ○高齢化社会、省資源対策として、公共交通が見直される ○バス用ICカードシステムは、首都圏や福岡地区への納入一巡 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バス用ICカードシステムの全国展開 ■ バス用運賃箱のシェアアップ ■ OBC(オン・バス・コンピュータ)システムの拡販 ■ 海外市場の開拓
S&D	<ul style="list-style-type: none"> ○ネオンサイン市場の縮小 ○屋外広告や店舗看板の光源に、LEDの採用増える ○原材料価格、タイ・パーツ反落 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外事業戦略の再構築 ■ 新規製品の拡販継続 <ul style="list-style-type: none"> ● LED電源 ● 屋外蛍光灯看板用電子安定器 ● CCL
産業機器	<ul style="list-style-type: none"> ○電子マネー決済サービスの裾野拡大 ○受託先の事業再編や生産調整の影響により、EMS事業が低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み ■ プリント基板実装事業の強化

▶ **輸送機器事業**

取り組みを進めている重点課題

バス用ICカードシステムの全国展開

バス用運賃箱のシェアアップ

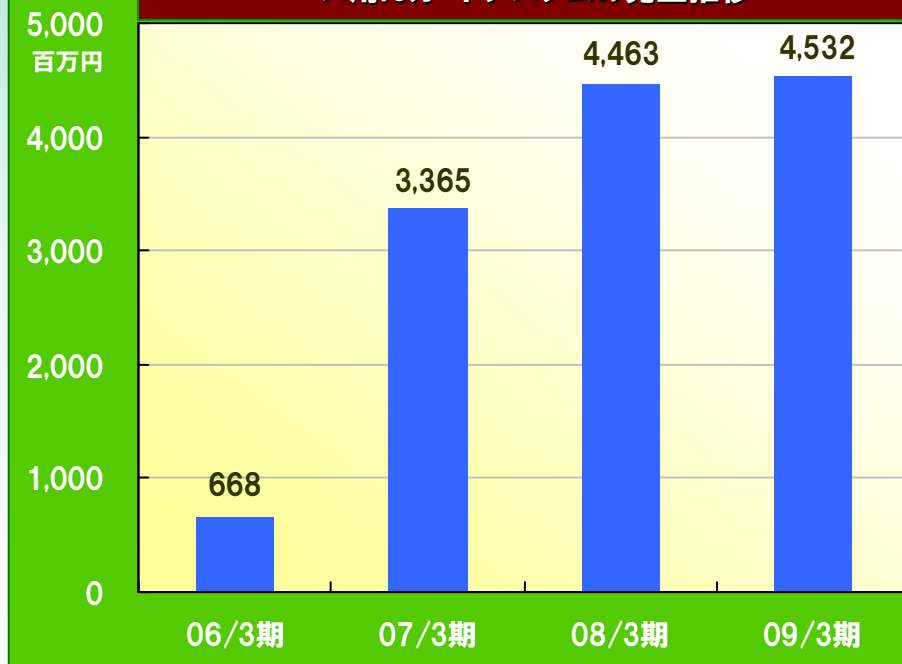
OBCシステム(液晶表示器)の拡販推進

輸送機器事業製品の海外市場開拓

バス用ICカードシステムの全国展開

- 首都圏向けへの納入は、前期2009年3月期で、ほぼ一巡
- 今期2010年3月期は、反動減を予想
 - ➡ 首都圏や、福岡地区などの大口物件一巡に加え、今期は納入の端境期となることも影響
- 引き続き、全国的な拡販を推進
 - ➡ 首都圏向けは一巡するも、全国的には、普及途上。これまでの実績を追い風に、全国展開を進める
今期は、名古屋地区への納入を予定

バス用ICカードシステムの売上推移



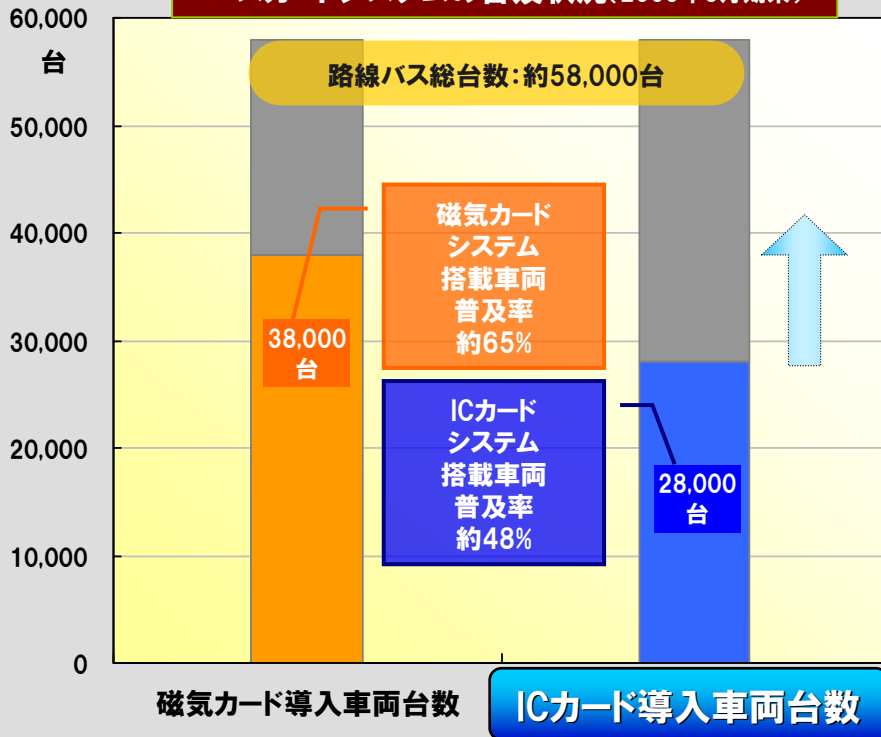
ICカード対応運賃箱・ICカードリーダー・ライター



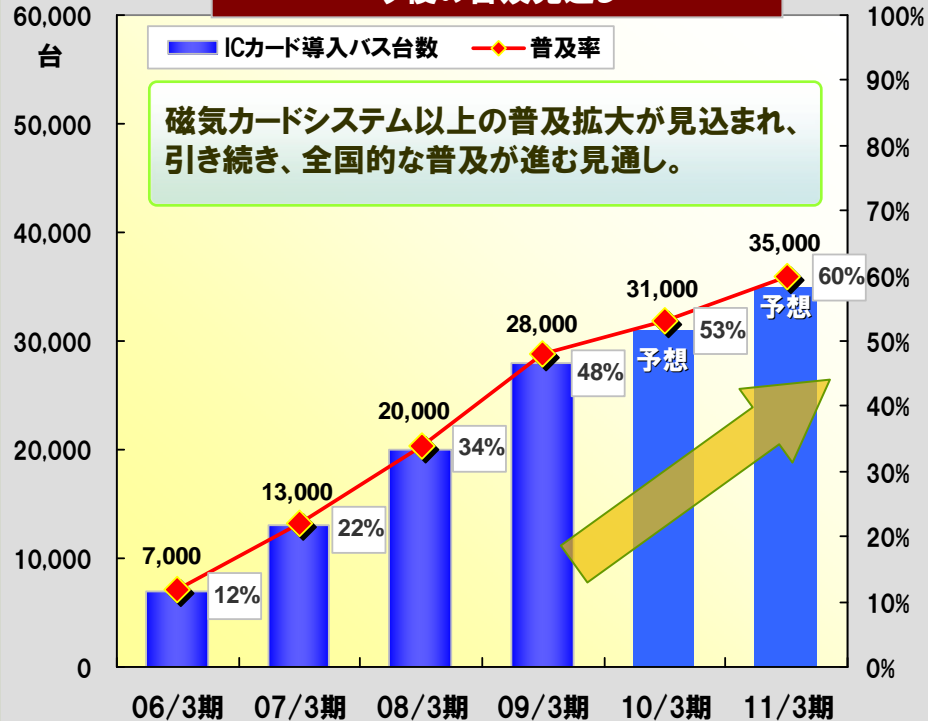
バス用ICカードシステムの普及見通し

- 国内の路線バスの台数：約58,000台
うち、従来型の磁気カード式運賃精算システム導入車両台数：約38,000台・普及率約65%
- 現状、ICカードシステムの普及台数：約28,000台・普及率約48%
- 今後、首都圏以外の地域への普及拡大により、普及率は、70%程度まで進むと予想

バスカードシステムの普及状況(2009年3月期末)



今後の普及見通し



ICカードシステムの当社導入実績

国内トップシェア:53%

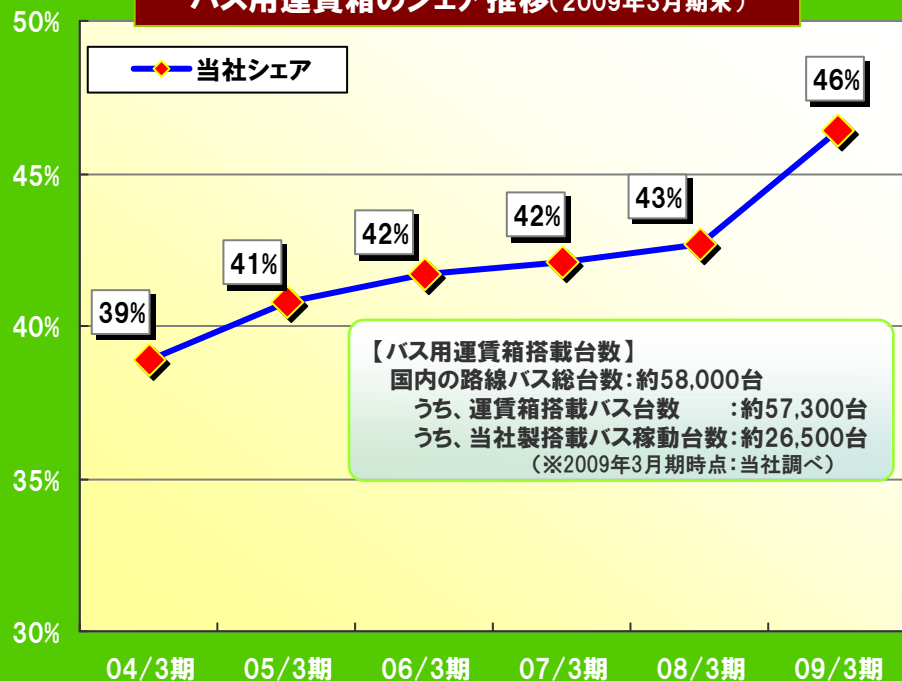
(※ 2009年3月期時点 当社調べ)



バス用運賃箱のシェアアップ

- バス用運賃箱のシェア拡大続く。今期2010年3月期中の、トップシェア獲得をめざす
- 運賃箱の薄型化と、高額紙幣への対応を実現
 - ➡ バリアフリー、省エネに貢献：従来の機能はそのままに、20%以上の薄型・軽量化を実現
 - 乗客の利便性向上：1万円札、5千円札の高額紙幣両替、ICカードへの積増入金も可能に
- 得意とするICカードシステムの普及拡大も追い風
 - ➡ ICカードシステム導入の際、当社のICカード対応運賃箱が採用される

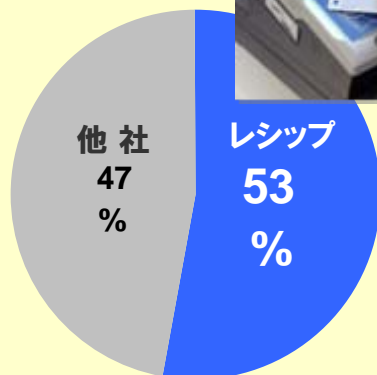
バス用運賃箱のシェア推移(2009年3月期末)



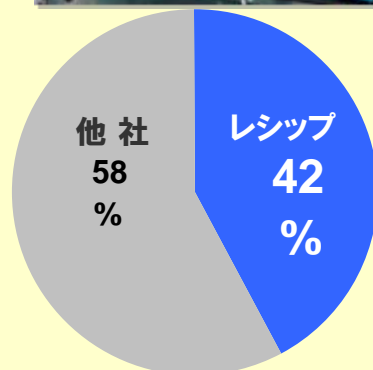
薄型運賃箱



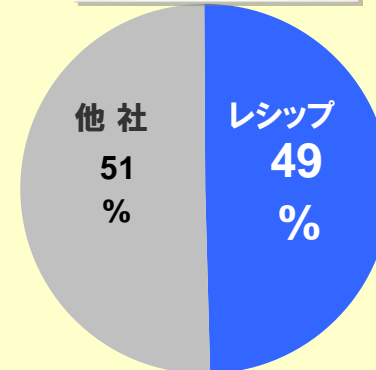
バス用ICカードシステム



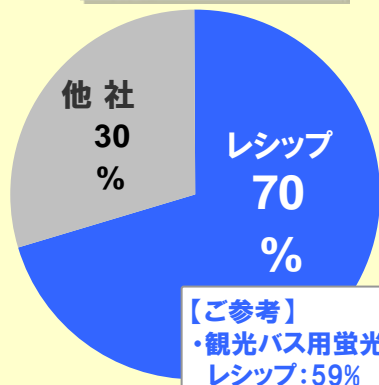
バス用LED式行先表示器



バス用液晶表示器

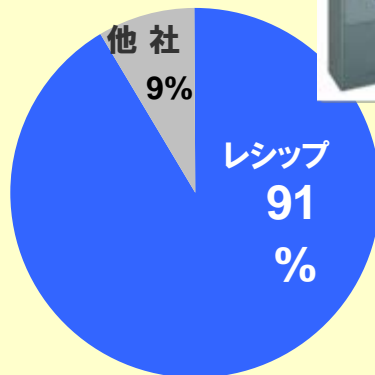


路線バス用蛍光灯具

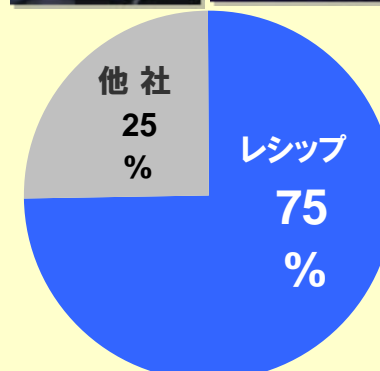


【ご参考】
・観光バス用蛍光灯具
レシップ:59%

ワンマン鉄道用運賃箱



トラック用蛍光灯具



OBCシステム(液晶表示器)の拡販推進

● 乗客の利便性向上

➡ 運賃、路線案内、動画広告等、様々なコンテンツの液晶表示が可能に

● バス会社の業務効率化

➡ バス車載機器のデータ(運賃データ、表示データ等)を一元管理、集中制御

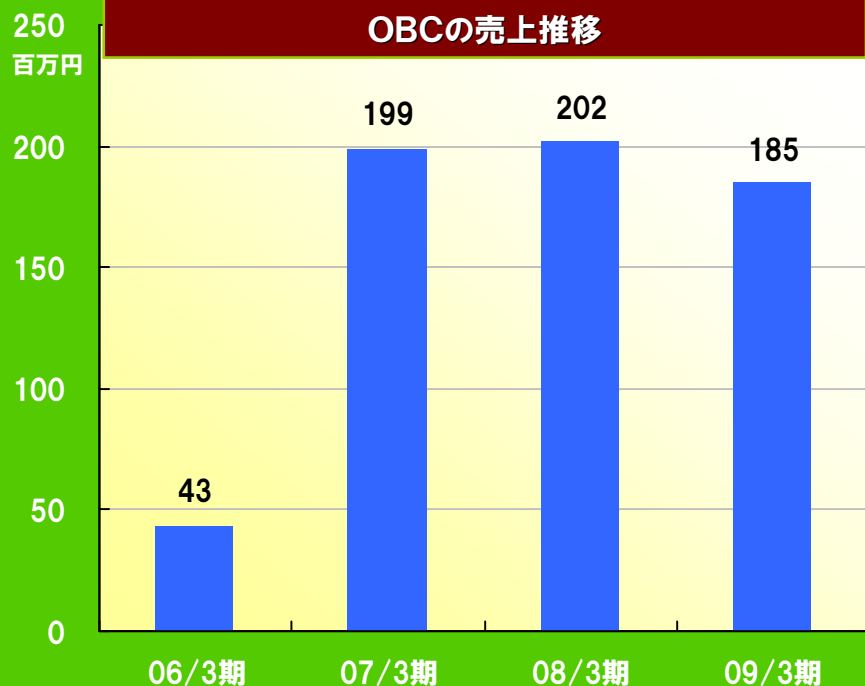
● PC機能を活かした用途開発・ソリューションの提案推進

➡ 将来的には、車外と車内の機器をオンライン化

「リアルタイム乗客用表示器システム」として、バス車内のほか、駅・バスセンター・バス停、施設の待合室などの表示器を通じ、運行情報、ニュース・CM、緊急・災害情報など、あらゆる情報のリアルタイム配信も視野に



運賃・停留所表示のほか、運行案内や、動画広告など多彩な情報配信が可能。



OBCを活用した「リアルタイム乗客用表示器システム」

● 地上とのネットワーク化

無線対応の場合、車載機で必要となるオプション費用の他、地上無線設備の構築費用(通信環境調査費用含む)および、通信費用等が必要となります。

● 車載機のシステム化



輸送機器事業製品の海外市場開拓

- 現状、当社の輸送機器事業製品の海外展開は、アジア地域向けが中心

海外市場開拓により、次なる成長ステージへ。

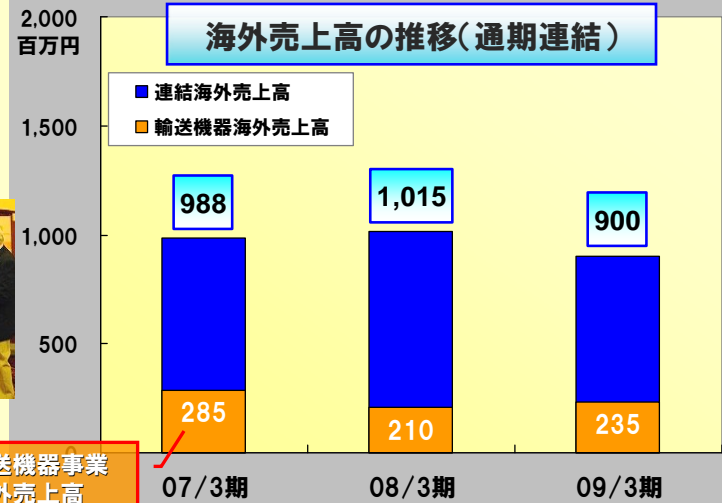
● 米国市場開拓

- ・米国最大級の公共交通系展示会に初出展
- ・現地バス事業者様への営業活動を展開中



● 鉄道用蛍光灯具での米国市場参入もめざす

- ・海外受注を拡大している日本の車両メーカー様へアプローチ



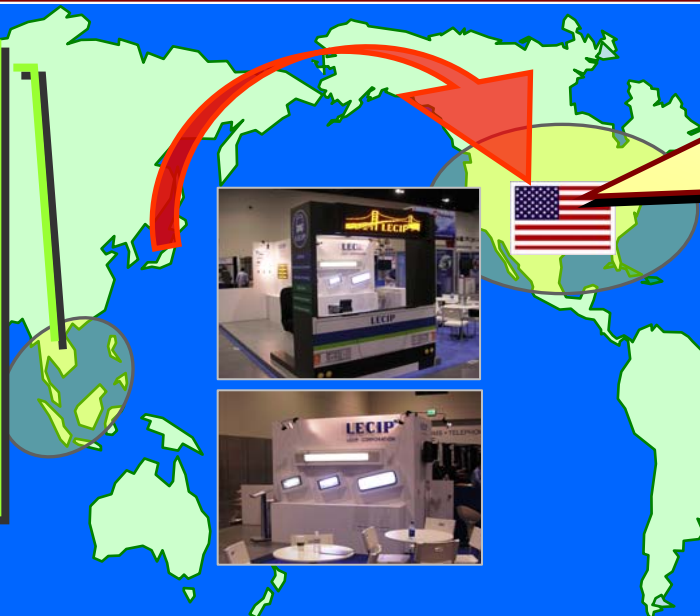
輸送機器事業
海外売上高

【現状】

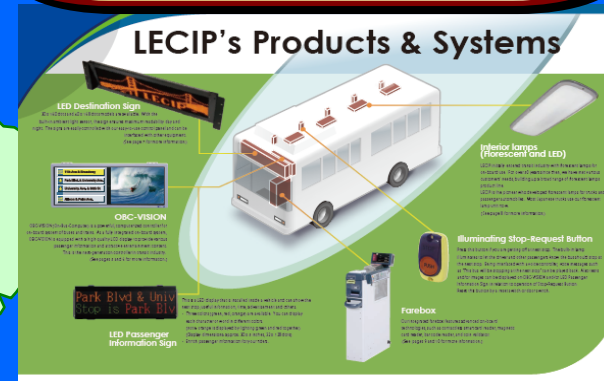
輸送機器事業製品の海外売上高は、アジア地域への販売が中心
：2億35百万円(09/3期実績)

《これまでの主な納入実績》

- ◎香港：ICカードリーダー
- ◎シンガポール
：バス総合運行管理システム、
：料金箱、磁気カードシステム、発券機
- ◎マレーシア：磁気カードシステム
- ◎中国：鉄道用蛍光灯具 等々



- 米国市場参入に向け、取り組み加速
- 運賃箱や、OBC(液晶表示器)、LED式行先表示器などの車載システム機器、鉄道用蛍光灯具での参入をめざす。



▶ S&D事業

取り組みを進めている重点課題

海外事業戦略の再構築

- ▶ 米国におけるネオン変圧器の販売事業再編

新規製品の拡販推進

- ▶ 「屋外広告用電源の総合メーカー」への転換
- ▶ 今後成長が期待される新規製品の拡販推進

【拡販注力中の新規製品】

- LED電源
- 屋外蛍光灯看板用電子安定器
- CCL

海外事業戦略の再構築 ～ネオン変圧器ビジネスを再編～

【米国におけるネオン変圧器販売事業の再編】

米国のネオン変圧器販売事業から撤退 Allanson Inc. への譲渡を決定

- 米国向けネオン変圧器が、S&D事業の利益を圧迫。今後もネオンサイン市場の縮小が予想される
- 米国におけるネオン変圧器の販売事業を、カナダのAllanson International Inc.の米国関係会社であるAllanson Inc.(本社:米国・NY 事業内容:ネオン変圧器・燃焼器具用変圧器等の製造・販売)へ譲渡
当社の販売は、日本国内向けに特化
- 当社の米国販売子会社 LECIP U.S.A.,INC.は、存続
今後、米国市場の開拓を進める輸送機器事業製品の販売拠点となる

- ▶ 不採算の、米国ネオン変圧器事業からの撤退
- ▶ 今後、LED電源、屋外用電子安定器、CCLなどの新規製品へ軸足を移し、成長が期待される分野に、経営資源を特化

S&D事業の業績回復を図る

新規製品の拡販推進

LED電源

- ▶ 店舗看板や屋外広告へのLEDの採用増えつつあり、電源の需要増勢
- ▶ **コンビニチェーン店・LED看板への採用決定** 今期から納入開始
- ➡ 今後も拡大が予想されるLED市場を開拓

LED電源



屋外蛍光灯看板用電子安定器



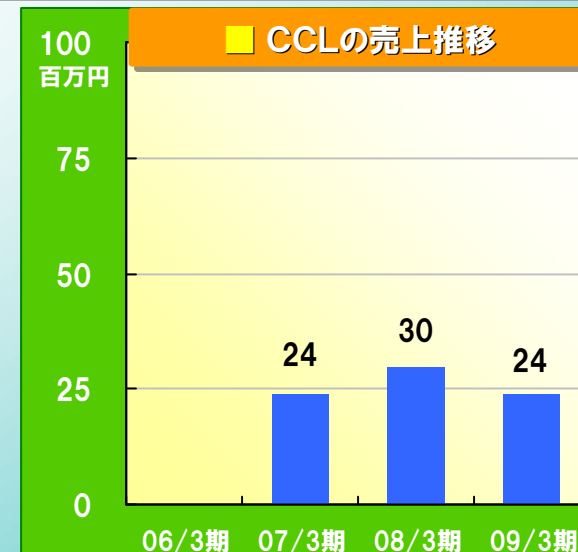
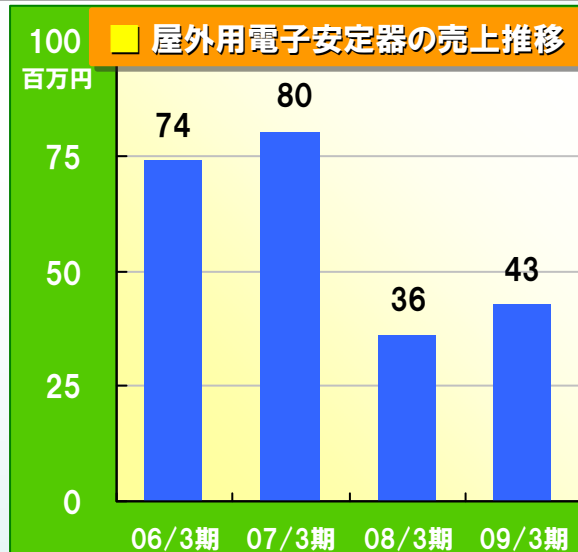
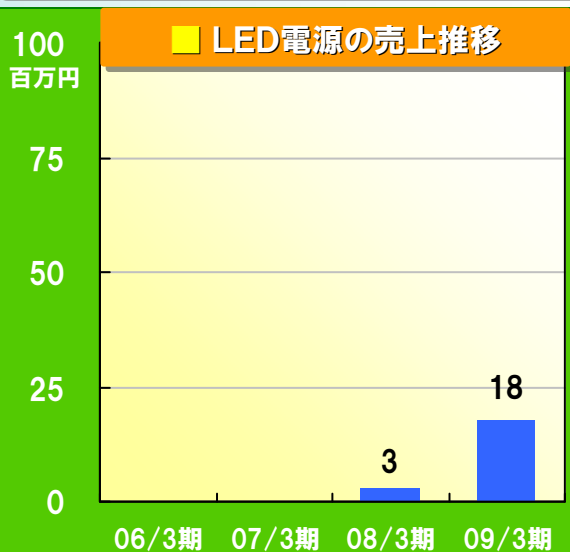
屋外蛍光灯看板用電子安定器

- ▶ 省エネ・環境対応:消費電力・CO2排出量20%~30%削減効果
- ➡ 引き続き、コンビニ等フランチャイズチェーン店などへの採用促進

CCLのご採用事例

CCL(Cold Cathode Lamp)

- ▶ 建築・施設照明向けのライティングシステム
- ➡ 新たな市場を開拓



▶ **産業機器事業**

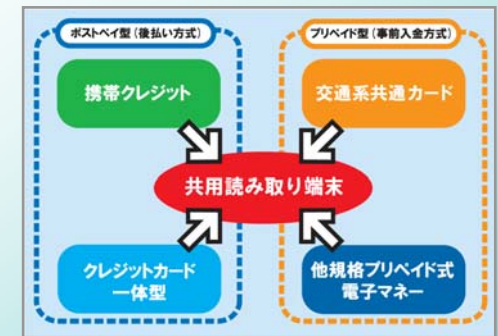
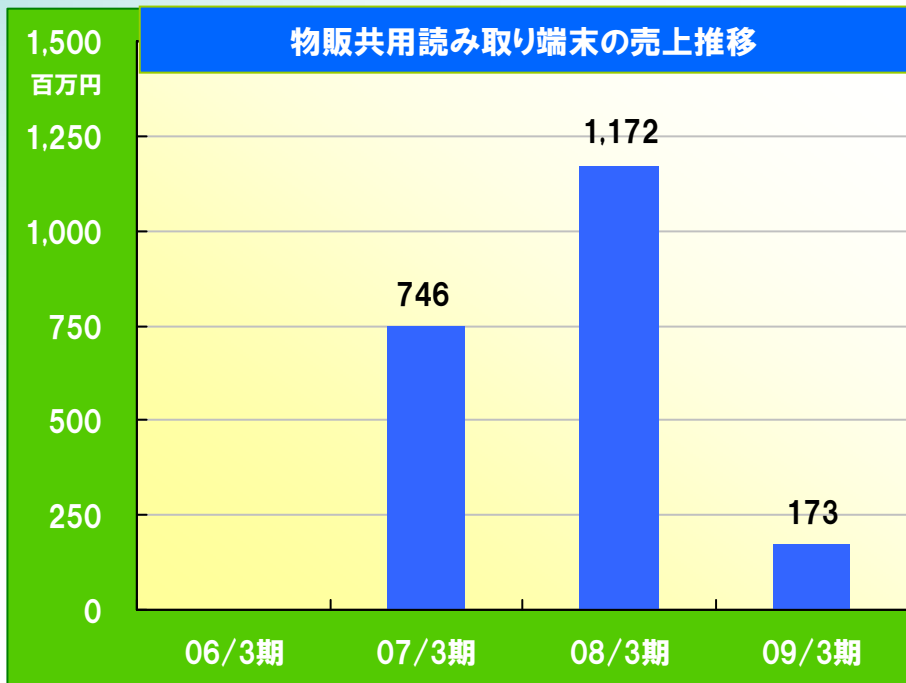
取り組みを進めている重点課題

物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み

レシップ電子・基板実装事業の強化

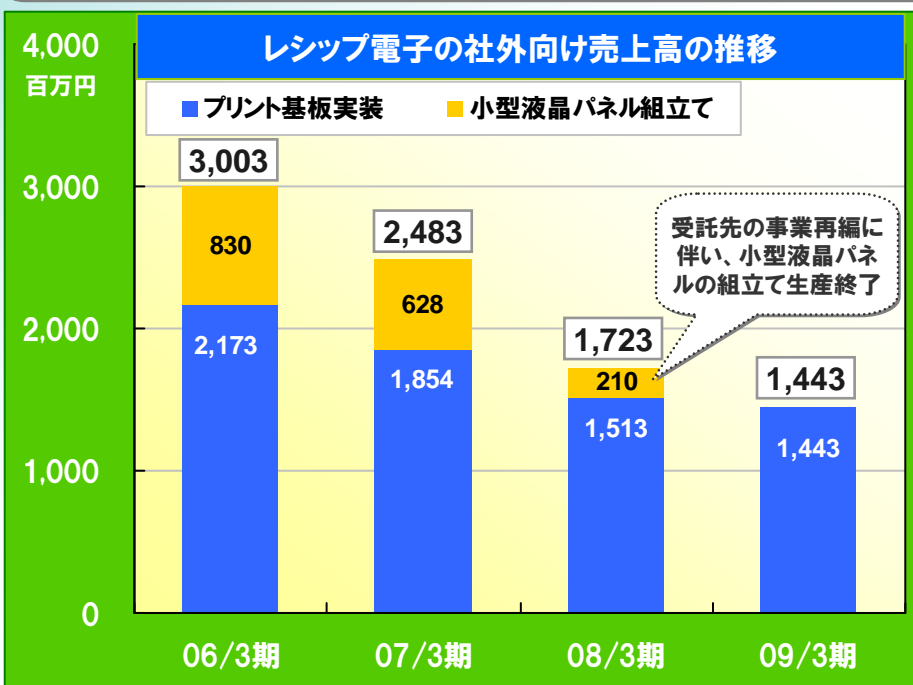
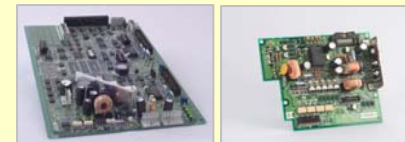
物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み

- 電子決済サービスの拡大とともに、共用読み取り端末のニーズ高まる
- これまでの交通系ICカードシステム、香港への納入実績
 ➡ Suica電子マネーを軸とする複数規格電子マネー・共用読み取り端末の開発・製造パートナーに
- 前期2009年3月期は、大幅減となるも、今後も、電子マネー決済サービスの普及が予想される
- 用途の拡大にも柔軟に対応しながら、売上確保に注力



レシップ電子・プリント基板実装事業の強化

- 小型液晶パネルの組立て生産終了。プリント基板実装事業に注力
- 電子制御化進む自動車用電装品向け基板実装の需要に対応
- 景気後退の影響により、数量拡大厳しいものの、工数低減に努め、採算面の向上に注力
- 社外向け落ち込むも、グループ内では重要な位置づけ
 - ➡ 自社グループ内に基板実装ラインを有していることで、当社製品に使用される基板を安定的に調達できる強み
顧客の仕様にも柔軟かつスピーディに対応可能であり、高い信頼とご評価をいただく



1. 事業セグメントの内容について

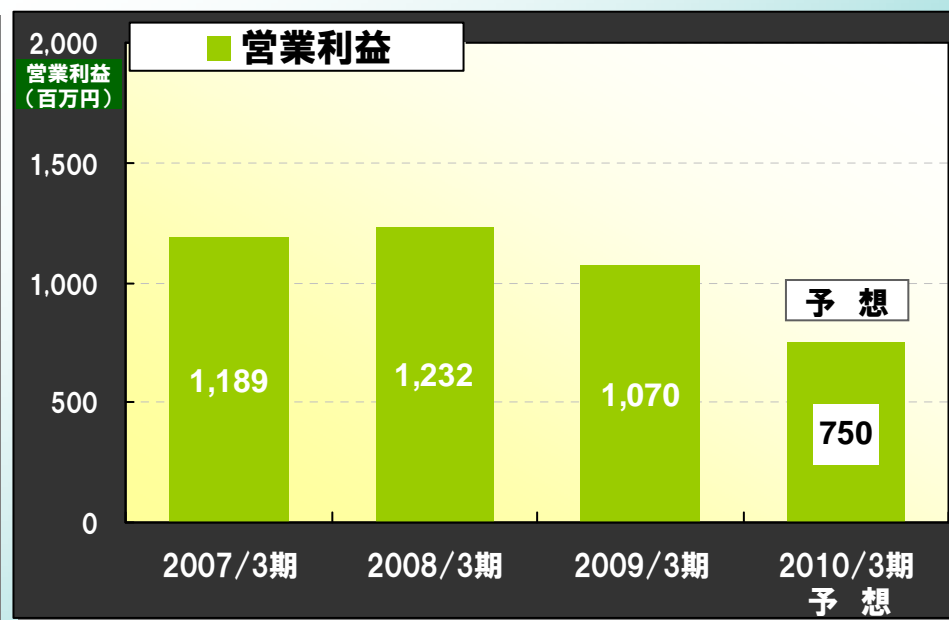
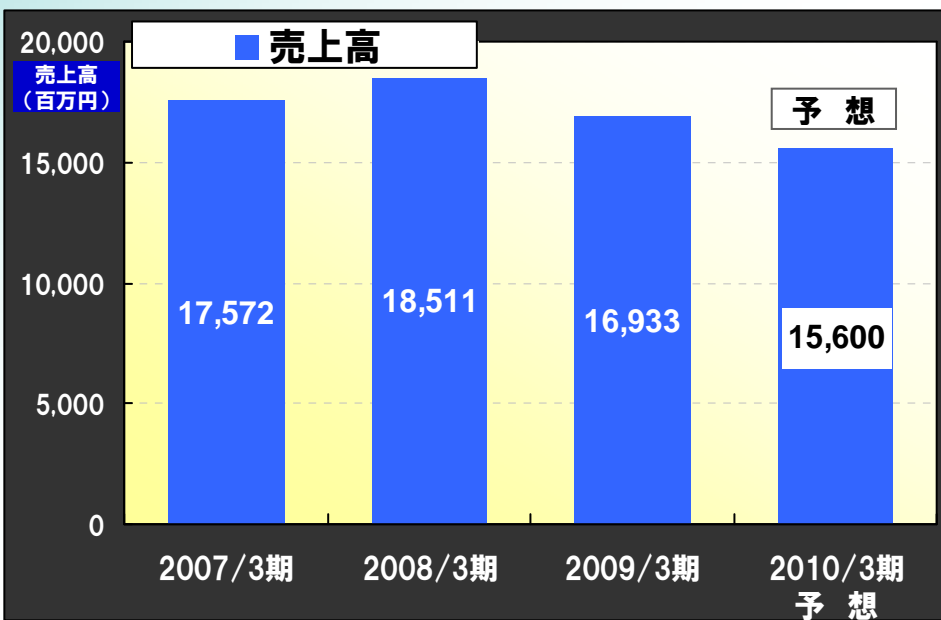
2. 2009年3月期 業績概要

3. 重点課題の進捗状況

▶ 4. 2010年3月期 業績見通し、配当の状況、その他

2010年3月期 業績予想

連結業績予想	2009年3月期実績 (百万円)		2010年3月期業績予想 (百万円)		前期比増減額 (百万円)	前期比増減率 (%)
		構成比 (%)		構成比 (%)		
売上高	16,933	100.0%	15,600	100.0%	▲1,333	▲7.9%
営業利益	1,070	6.3%	750	4.8%	▲320	▲29.9%
経常利益	1,104	6.5%	820	5.3%	▲284	▲25.8%
当期純利益	521	3.1%	460	2.9%	▲61	▲11.8%
E P S (円)	81円57銭	—	71円98銭	—	▲9円59銭	▲11.8%



業績予想のポイント




※ S&D事業における米国ネオン変圧器事業の再編に関しましては、現在、基本合意の段階であり、今回の業績予想には織り込んでおりません。
 ※ 業績への影響につきましては、今後、詳細に関する具体的な内容が決定次第、速やかに開示させていただきます。

⚡ マイナス要因

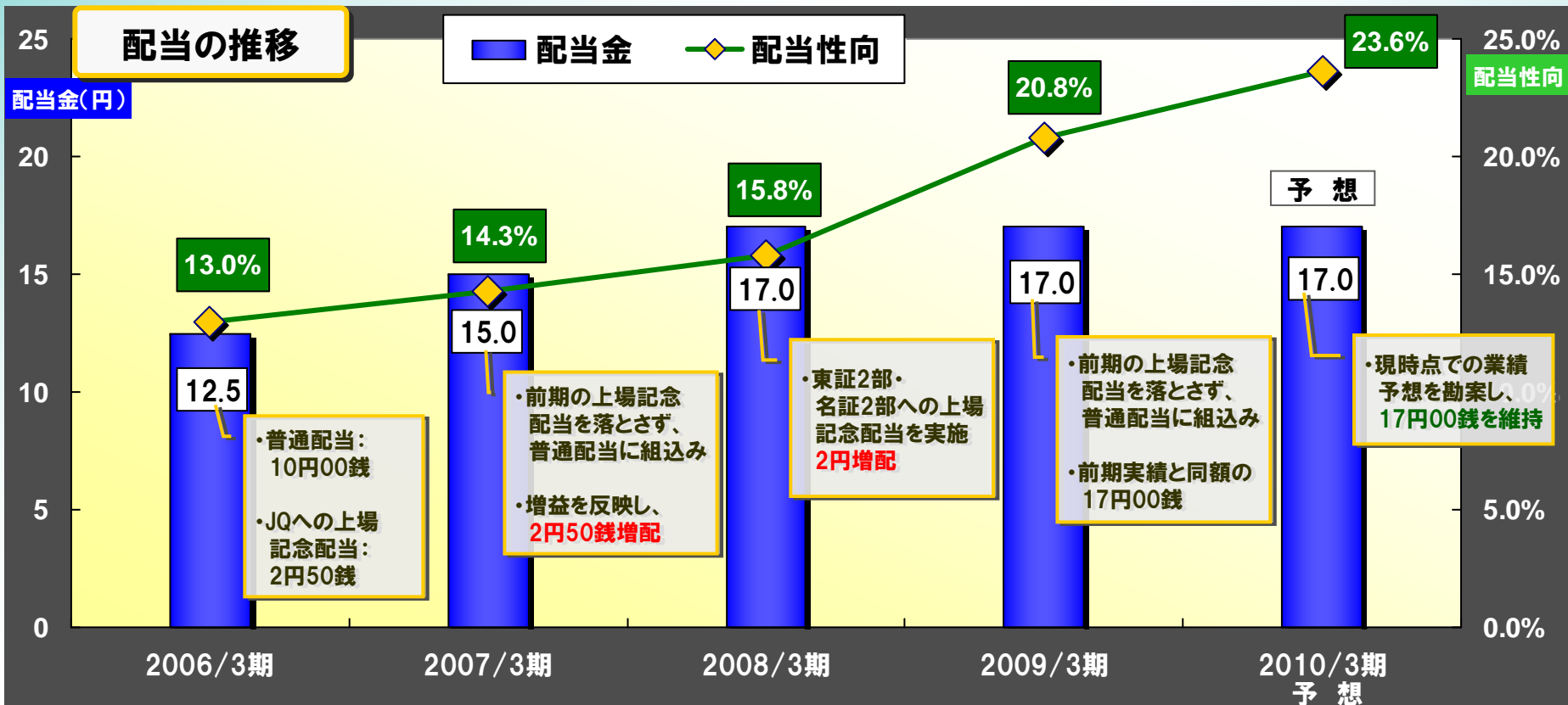
- 輸送機器事業において、バス用ICカードシステムの反動減、産業機器事業において、レシップ電子・プリント基板実装の需要低迷などが懸念されることから、減収減益予想。

➡ プラス要因

- S&D事業では、LED電源などの新規製品の拡販に加え、銅や鉄などの原材料価格の下落、生産拠点のあるタイ国の通貨パーツの下落などの貢献により、マイナス要因の一部をカバーする見通し。

	前期比	内容
輸送機器	【減少】 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス用ICカードシステムは、首都圏や福岡地区など大口物件の一巡に加え、納入の端境期となることも影響し、反動減。 ・OBCの拡販を見込み、マイナス要因の一部をカバー
S&D	【増加(改善)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・LED電源、CCLなど新規製品の拡販。 ・銅や鉄などの原材料価格の下落や、生産拠点のあるタイ国の通貨パーツの下落など、外部環境の改善も貢献し、収益面改善。
産業機器	【減少】 	<ul style="list-style-type: none"> ・景気後退の影響により、引き続き、レシップ電子のプリント基板実装の低迷が予想される。 ・バッテリー式フォークリフト用充電器も軟調。 ・前期に大幅減となった物販共用読み取り端末は、やや回復を見込む。

- 2009年3月期の配当は、前年実績と同額の、17円
▶ 前期の記念配当:2円を落とすことなく、普通配当に組み込み
- 2010年3月期の配当予想も、引き続き、17円を維持
- 継続的かつ安定的な利益還元に努める

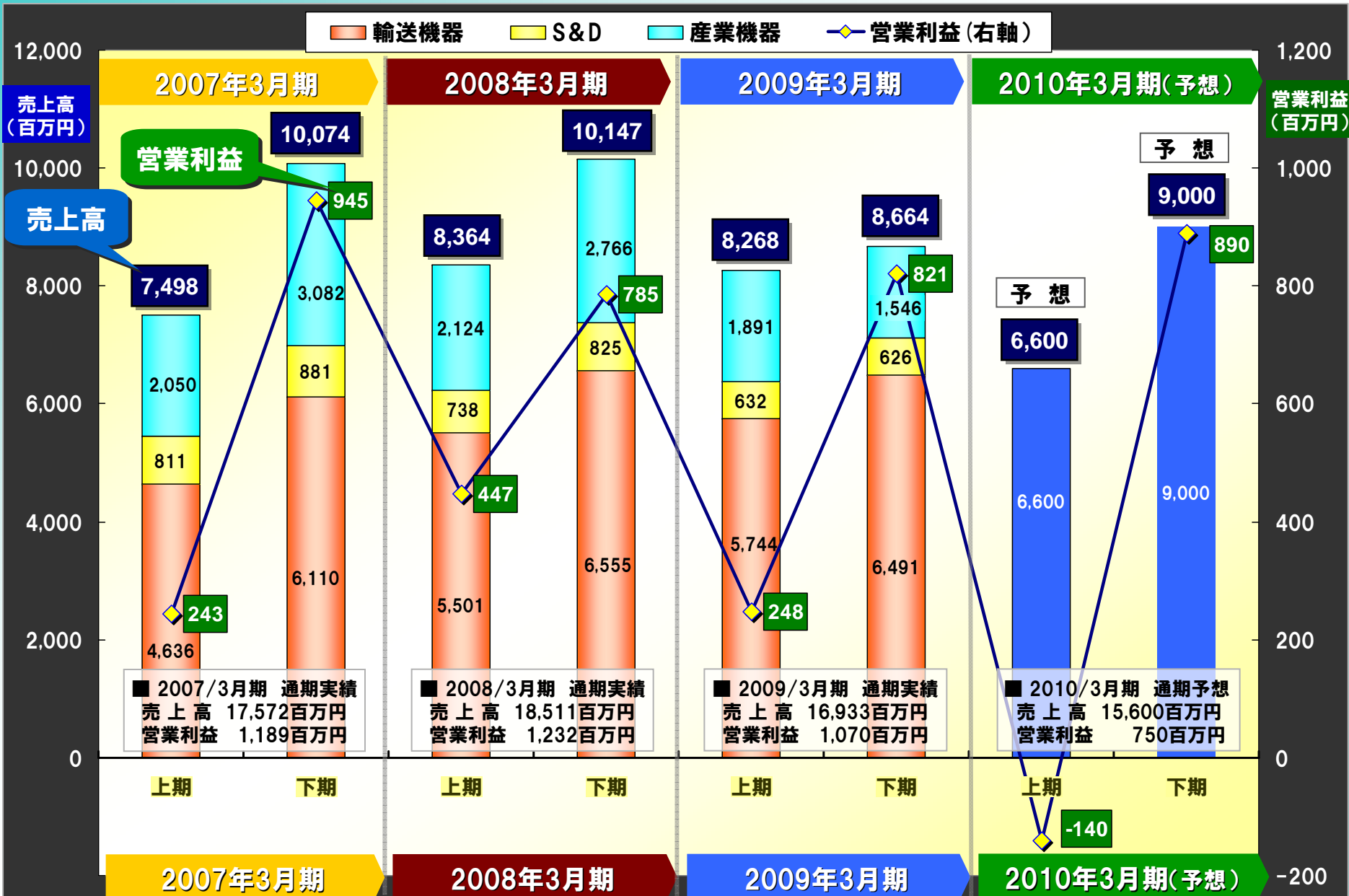


【ご参考】: 主な経営指標の推移

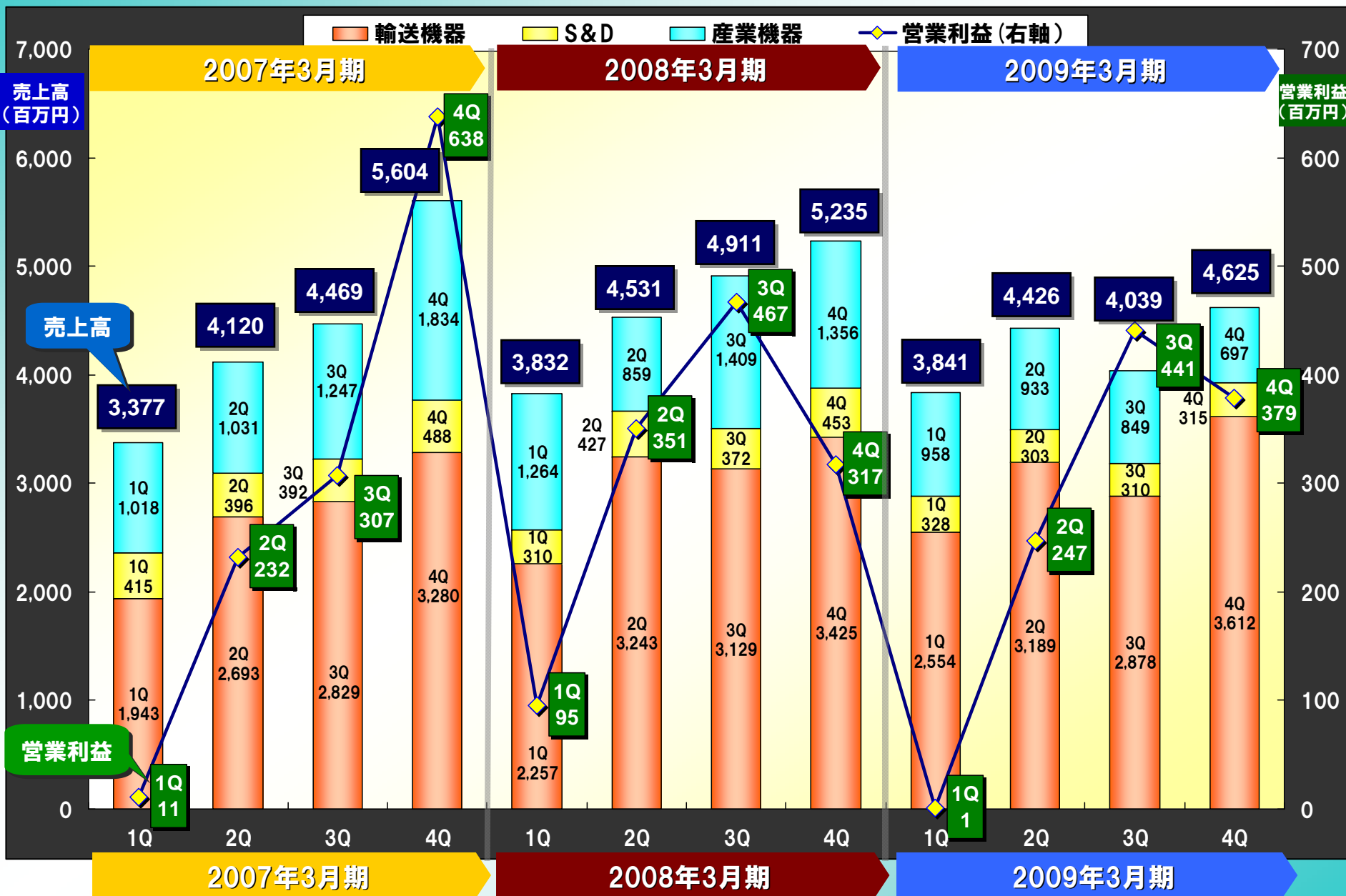
主な経営指標 の推移(単位:百万円)	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期 予想
売上高	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	16,933	15,600
営業利益	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,070	750
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7	6.3	4.8
経常利益	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,104	820
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.5	6.5	5.3
当期純利益	▲100	654	622	668	686	521	460
当期純利益率(%)	▲0.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.1	2.9
総資産	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	10,417	—
純資産	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	5,338	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.1	38.2	43.5	51.2	—
EPS(円)	▲18.05	107.70	96.29	104.68	107.38	81.57	71.98
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	10.1	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	781.66	835.44	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

【ご参考】：上期・下期別業績の推移

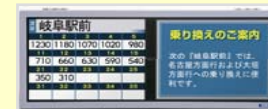


【ご参考】：四半期ごとの業績推移



当社新聞発表ダイジェスト

- 2008年 5月：名鉄バス(株)様からICカードシステム、OBC等の路線バスシステム機器を受注



- 2008年 7月：株主優待制度の新設を発表
 - ・対象：9月末時点で100株以上保有の株主様
 - ・地元特産「富有柿」1ケース（Lサイズ・14個入り・2,000円相当）



- 2008年 8月：高額紙幣対応薄型運賃箱を開発
 - ・1万円札、5千円札の高額紙幣両替、ICカードへの積増入金も可能に



- 2008年10月：米国の公共交通系展示会に初出展
 - ・硬貨即時計数タイプの薄型運賃箱、OBC、LED式行先表示器、鉄道車両用蛍光灯具などを出展



- 2008年12月：横浜・みなとみらいの(株)シンクロン様・新本社社屋に、CCLが採用される



- 2009年 4月：社内託児所を開設
 - ～仕事と育児の両立支援の一環・女性社員の確保・定着に向けて～



LECIP

レシップ株式会社

【資料お問合せ先】

IR担当役員：取締役常務執行役員

管理本部長 山口 芳典

電話番号：(058)323-7647

IR担当者：総務部兼経営管理部 野村 武史

電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。